

# とっとり・グローバルウォッチ

とっとり貿易支援センター情報誌

## 「食のみやこ鳥取県inニューヨーク」結果報告

### ニューヨークの日本食市場へ県内企業がチャレンジ

鳥取県は、10月28日～11月1日に、米国ニューヨークを中心とした地域で、鳥取県の食及び民芸品などをPR・販売する、食のみやこ鳥取県inニューヨークを実施した。世界経済の中心且つ情報発信力のあるニューヨークで鳥取県の食材等がどう評価されたのか、報告させていただく。

#### ■在ニューヨーク総領事館大使公邸でのPR

外務省と在ニューヨーク総領事館の協力の下、10月28日、在ニューヨーク総領事館大使公邸において鳥取県の食材及び民芸品のPRを行った。シェフ、小売バイヤー、レストラン関係者、マスコミ、貿易商社など120名を招聘。西宮大使、平井知事の挨拶に続いて、(社)鳥取県調理師連合会会長で「現代の名工」・旅館大橋総料理長の知久馬氏と副会長で三朝温泉後楽料理長の秦氏による、鳥取県境港から直送した真鯛8kgを使った姿造りを披露。卓越した両氏の匠の技に来場者からは大きな拍手が巻き起こり大きなインパクトを与えた。(写真下)



今回のPRでは県内企業17社が参加し、自社製品を積極的に試食、提案を行った。来場者からは、安全・安心、高品質で味もよいとして、米国初上陸の県産品に高い関心を持っていただいた。参加企業は、滞在中に関心のある企業へ訪問するなど、今後の成約に向けて期待が持てる結果となった。

#### ■Mitsuwaニュージャージー店での物産フェア

また、翌日の10月29日～11月1日までの

4日間、マンハッタンからハドソン川を挟んだ対岸にあるMitsuwaマーケットプレイス・ニュージャージー店の物産フェアに県内企業9社が参加した。Mitsuwaマーケットプレイスは、日本食品の販売とレストラン、本屋等からなる日系最大級のスーパーで、全米に8店舗を展開している。ニュージャージー店は、週末になると日本人駐在員を始め、中国系、韓国系のアジア人を中心に（最近では日本食に関心のある白系人も増加中）、マンハッタンやその周辺地域から買い物に訪れる場所となっている。今回は、年2回開催される催事イベント「味の銘店街」での開催ということもあり、実演販売を目当てに多くの方が来店。実演販売をした(株)オークのアジライスバーガーは、行列ができるほどの大人気で、また、その他の商品も、予定数量を早々と完売するなど販売は好調で、今後の定番化商品につながる可能性も生まれている。

#### ■米国市場の魅力

リーマンショック以降のレストラン、小売の売上高の減少はあるものの、先進国唯一の年率1%に近い人口が増加する巨大市場と高い購買力は魅力のある市場である。安全・健康志向の高まりで、日本食及び日本食材に注目が集まっており、日本食ブームとなっている。このおかげで、街の米系スーパーでも、カルフォルニア・ロールでおなじみの「Sushi」を売っている。これらの商品はノンジャパニーズシェフによるものである。ニューヨークは世界中から様々な人が集まる街であり、独自の伝統・歴史・食文化がないとも言える。しかし、新しいものを発掘し、そこに価値を見出し付加すること、逆にこのことこそが彼らの文化ではないかと感じた。米国での市場開拓は、容易ではないが、今回の出展参加をきっかけとして、鳥取県の素晴らしい商品を世界一厳しい競争の中で磨きを掛けて、全世界に打って出る第一歩となることを期待する。

### 目次

「食のみやこ鳥取県 inニューヨーク」結果報告	P 1
現地発！ 台湾月刊レポート	P 2 29 P 3
中国市場セミナー 結果報告	P 3
最新の上海 ～現地レポート～	P 4 20
お知らせ	P 5

### 世界の祝日 12月

■米国	25日	クリスマス
■香港	25日	クリスマス
	26日	クリスマス後の 最初の平日
■韓国	25日	クリスマス
■シンガポール	25日	クリスマス
■タイ	10日	憲法記念日
	31日	大晦日

出所：ジェトロ通商弘報  
「世界の祝祭日2009年版」から

# 現地発！台湾月刊レポート 29

## 昨今の台湾観光事情

台北旅行展覧会が開かれたため観光の話をしたい。台湾では、新交通機関の関係で、人気観光地にも変化が出てきている。また、台湾を訪れている観光客にも中国大陸からの観光客が大幅に増え、民間交流だけではなく地域経済にも影響を与え始めた。



### ■外国人に人気の宜蘭県

先週末、宜蘭県宜蘭市のショッピングモールで観光物産展をしないかというお誘いが来たので、現地視察してきた。宜蘭県は、台湾北東部に位置し日本人にはなじみが薄い。戦時中は、神風特攻隊の基地があったといえ、わかるだろうか。私が現地を訪れても、まだ日本人が珍しいらしく何人もが話しかけてきた。台湾にもまだこういう場所があったのか、と素朴に驚いた。そういえば先月、イタリア南部に行き、田舎のレストランの店員と話をした。彼に台湾を知っているかと尋ねたところ、行ったことがあると答えがあった。「台北に行ったの?」と聞くと「いいえ、宜蘭県。」と回答があり正直びっくりした。実際、宜蘭県では西洋系外国人を良く見かける。調べたところ、伝統音楽の交流が盛んで、彼もイタリアの民俗音楽の演奏者であった。さて、ショッピングモールの話に戻るが、ここでの上客は、大陸からの観光客であるとのこと。実は、モールの上の階がホテルになっており、泊りがてらごっそりと買物をしていくというのだ。というのも大陸からの観光客は、観光範囲が制限され、買物をする機会が案外恵まれていない。ホテルとモールが同一棟であれば時間と場所の制限がなく、買い込みやすい。

一般に宜蘭人は、保守的と言われている。人の行き来が少なかったためと考えられる。しかし台湾最長の雪山トンネル(全長12.9km)が、台北と宜蘭の間に開通し状況

が一変した。従来、車で2～3時間もかかっていたが、たったの60分で行けるようになったのだ。日本の道路トンネルの最長は関越トンネルで11kmであり、このトンネルがいかに長いかがわかると思う。現在、鉄道でも特急で90分かかる。これは、台北～高雄新幹線と同じ時間だ。この開通により、宜蘭県の各地は、観光客でにぎわっている。たとえば礁溪温泉でJAL系ホテルも開店し、最近の台湾人観光の人気スポットになっている。

さて、台湾観光局の統計資料を見て、2009年1月～2009年9月までの累計観光客を編集してみた。次のとおりである。

(単位：人)

1月～9月の集計	2009年	2008年	2007年
大陸 Mainland China	687,851	224,072	0
日本 Japan	738,315	805,192	859,325
韓国 Korea	128,079	208,450	166,273
その他	1,610,243	1,599,165	1,673,653
総計 Grand Total	3,166,497	2,838,887	2,701,258

台湾を訪れる中国大陸からの観光客は、日本の観光客とほぼ同数に近づいていることに驚く。増加数には目を見張る。一昨年までは「ゼロ人」だったのだから。日本からの観光客は微減。韓国からは、昨年比半減である。しかし全体の観光客数が微増なのは、大陸客の増加により穴埋めされているからであることは明白である。台湾と大陸の交流が、経済だけではなく、民間ベースでも活発化している。また台湾人にとっても経済の活性化に大陸は無くてはならないものになっていることもわかる。

### ■中国大陸との交流が活発化

先日まで「2009台北国際旅展」が開かれていたが、58ヶ国、1206個のブースがオープンしていた。中でも目を引いたのが大陸からのブースであり、256個のブース、31省市と自治区が出展。参加人数も486人に達した。大陸の発展とともにますます交流が盛んになってきている。ちなみに国際旅展は目標の20万人を突破し、21万人にも達した。熱気に溢れていた。昨年比20%の売上増加であった。内容は、日本と同様、デフレの影響下、単価は下がっているが内容が充実したものも多かったようである。

そういえば、観光局のHPを見ていて違和感があった。「喜迎寶健(中国)近萬人團來台獎勵旅遊」として大陸の一企業のことが、重要なニュースヘッドラインとして掲載されているのだ。ニュースの内容は、大陸寶健集團の従業員「一万二千名」が、台湾観光に来る。そして台湾ドル6億元(日本円18億円弱)を消費する予定で地方経済を活性化する、というのだ。この企業の来台者の平均像は、年齢が40歳前後で優秀な社員を選別し、年間所得が1万人民元(日本円13万円強)。一団体あたり400～700人前後が、20数回にわたり、來台するらしい。ちなみにこのニュースでは、台湾への企業旅行を推進する、という内容でこの企業を持ち上げており、日本企業もPOLA、

<次頁へ続く>

SONYなど申し訳程度に最後に書かれているが、目標は大陸からの大企業慰安旅行団の誘致であるのは、間違いのないようだ。

参考→<http://taiwan.net.tw/ml.aspx?sNo=0015397&key=>

観光と言えば、これまでも何回か書いているが、自転車ブームが続いている。台湾では、バスで自転車を運べる路線ができて話題になっている。なんとバスの前部に自転車を取り付けられるのだ。(写真右)台湾はエコブームで、公共交通機関+自転車という組み合わせは、台湾MRT(地下鉄)や、台鉄(台湾国鉄)では既にあったが、バスとの組み合わせは、初めてとのことだ。

参考→<http://www.tpebus.com.tw/newsfile/136.html>



【(株)スナーク 富田】

## 中国市場セミナー結果報告

### 最新の中国事情を読み解く

鳥取県産業振興機構とジェトロ鳥取は10月21日、国際ファミリープラザ(米子市)において海外セミナー「市場としての中国をどう攻めるか」を開催し、中国市場の概況についてジェトロ海外調査部の岡野陽二氏に講演いただいた。

#### ■勢いがある内陸部

岡野氏によると、従来は外資系企業のターゲットは一部の富裕層のみであったが、現在は所得階層が細分化且つ大幅に拡大しつつあり、中間層や中間層予備軍までもターゲットとすることができるとのこと。更に有望市場は沿海部だけでなく、内陸都市でも所得の発展に伴って一定規模の富裕層が存在し、沿海部以上に勢いがあると言う。中でも岡野氏が一番注目しているのは、貯蓄よりも食事や余暇を志向する江戸っ子的な消費傾向が強い成都だそう。ただ、内陸部は物流網が未整備であり、同じ商品でも物流コストを勘案すると、沿海部と内陸部の価格を統一するのは困難であるとのこと。

#### ■華北は贈答用、華東は個性、華南は実用性を重視

岡野氏はそれぞれ地域の特徴について、「北京など華北地域は、保守的で地味なイメージだが、贈答用需用が旺盛。上海など華東地域は、個性的で流行に敏感、世界中の企業がしのぎを削る“オリンピック市場”。広州な

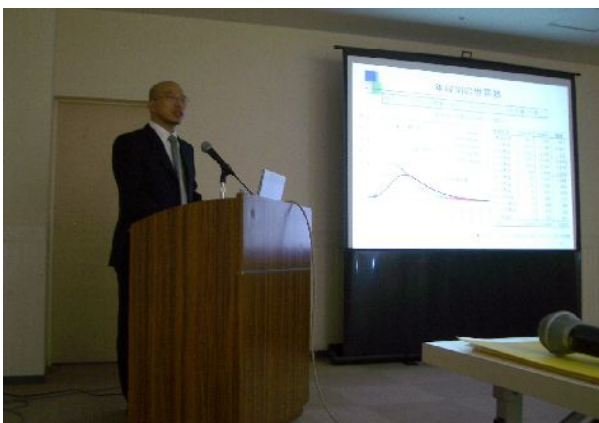
ど華南地域は、消費意欲は高いがブランドより実用性を重視、流行に惑わされない。」と解説し、地域によって違う消費者の性質を分かり易く紹介した。

#### ■包装や陳列でアピール

日系企業が中国国内で販路を拡大する場合、商品開発や価格設定、また販売チャネルの確保や宣伝については課題としてすぐに思いつくと思われるが、多くの企業があまり気にしていない包装や陳列方法についても実は工夫が必要だと言う。味や品質の違いを包装の素材や配色でアピールできているか、中国人が好むデザインであるか、ということだ。ちなみに、一般的に中国人は赤色や金色など派手なデザインを好むと言われる。

中国は昨年からの世界的不況下でもいち早い景気回復を見せ、その力強い内需拡大と消費力があらためて見直されている。この度のセミナーでは、中国市場での一般消費者向け販売に焦点を当て、実際の市場開拓事例を数多く交えて解説いただいた。

世界中の企業が、着実に富裕層が増えつつある巨大な中国市場を目指している。その競争の中で日系企業が生き抜くためには“商品の差別化を図る”だけでは、いやや十分とは言えないのかもしれない。



セミナーの様子(講師:岡野氏)



成都市の繁華街(セミナー資料より)

【(財)鳥取県産業振興機構海外支援グループ 早川】

# 最新上海 ～現地レポート～ 20

## 上海でタクシー料金値上げ

上海において、タクシーは地下鉄やバスと同様、市民の足として欠かせない。朝夕のラッシュ時や特に雨の時などはタクシーが捕まらないということもしばしば。また、上海の地下鉄の終電時刻は早く、利用客数の多い1号線や2号線でも23時前後である。終電が21時前の路線さえある。不夜城上海の交通を支えているのはタクシーと言っても過言ではない。上海のタクシーは料金も手ごろなことから、日本に比べ身近な交通手段だと感じる。このタクシー料金が去る10月11日より運賃値上げとなった。しかし、実際にはメーターの入れ替えや、ドア窓に貼り付けている初乗り料金のシール（写真右下）張り替えなどの雑務により全てのタクシーが一斉に変更することはできず、10月11日より変更を開始し、10月末までに完了させるという状況である。そのため、10月末までは新旧料金が並存している。

### ■上海のタクシー事情

少し話がそれるが、上海のタクシー会社について触れておこう。上海には約20数社のタクシー会社があり合計48,000台のタクシーが登録されている。このうち三分の二を有している五大タクシー会社が、「大衆/水色の車体」「強生/黄色の車体」「巴士/緑色の車体」「海博/濃い青色の車体」「錦江/白色の車体」である。その中でも、大衆タクシーは上海最大手であり、最も保有台数が多く上海市内に約9,000台を有している。上記の通り段階的に運賃引上げ体制を整えている中で、大衆タクシーはその保有台数の多さを考慮しても移行作業がすばやいと感ずる。大衆タクシーのドライバーによれば、一日当たり500台ずつ新運賃へ切り替えていく計画とのことだが、料金値上げから2週間ほどたった現在のところ旧料金の車輦はほとんど見受けられない。

### ■環境に配慮した値上げ

今回の値上げの理由として、以下のようなことが挙げられる。①環境保護の観点から、タクシーに対しより環境負荷の少ないガソリンの使用を推進していくことに伴い、その費用が高くなるため（\*1）。②2007年11月以降、既に燃料価格の水準がタクシー運賃の許容範囲を超えているため。また一方、市民の間では、上海万博期間中の収益拡大を見込んだ上で、直前での運賃引上げによる反発を回避し、このタイミングで引上げに踏み切ったとの声もある。

では、今回の運賃引上げの詳細についてご説明しよう。まず、料金については以下の表をご参照頂きたい。

		旧料金(元)	新料金(元)	値上げ率(%)
午前5:00～23:00	初乗り	11	12	9.1
	3km超 1kmあたり	2.1	2.4	14.3
	10km超 1kmあたり	3.2	3.6	12.5
23:00～翌5:00	初乗り	14	16	14.3
	3km超 1kmあたり	2.7	3.1	14.8
	10km超 1kmあたり	4.1	4.7	14.6

大衆タクシーのドライバーにヒアリングをしたところほとんどの利用者の運賃は25元（350円）以下であるとのことより、10km以下の利用であることが分かる。例えば、旧料金体制の下で、運賃25元支払った場合の走行距離は約9.6km。新料金体制の下で、9.6km走行した場合の運賃は、約28元（392円）となる。つまり、新料金体制に移行することで、概ね従来よりも約12%の値上がりになるだろう。上海市の昨年1月時点の消費者物価上昇率（CPI）は5.9%だったことから、今回の運賃引上げは少々大幅な値上がりとも思えるが、石油価格の持続的に高騰していること、上記の通り来年の万博を見込んで環境的・経済的に期待していること、運賃の引上げは一度行われると以後数年は行わないという今までの動きがあること、などを考慮すれば妥当な範囲内だと受け止められる。

この値上がり以降も依然としてラッシュアワーや天候不良の時間帯での混雑は変わっていない。よって、利用客の減少は見られず、タクシー業界としても収益の減少はありえないと発表している。人民日報によれば、今回の値上げでタクシー1台の1ヶ月当たりの売上が1,400元（19,600円）増えると推測されている。つまり上海市内のタクシー業界において年間8億640万元（112億8960万元）の売上増加になる。

上海物価局によれば、原則1年以内の周期では料金変更は行われないとのことだが、燃料価格の上昇程度を見据えて、1年に1回料金の変更が行われるため、タクシーの更なる値上がりも否定できない。上海の交通事情はここ数年の間にタクシーの値上がりや地下鉄の整備など目まぐるしい変化を見せるだろう。



\*1：上海市の環境保護3年行動計画に基づき、11月より従来使用されていた90号ガソリンが廃止され、自動車排出基準である「沪IV標準」に沿った93号ガソリンの使用に移行した。

《備考》1元＝14円で換算

（1元未満の端数に関しては四捨五入）

# お知らせ

## ジェットロ鳥取より 貿易実務講座のご案内

貿易の初歩から分かりやすく説明をする貿易実務講座を開催します。これからの経営多角化・安定化の一つの手段として、貿易の世界を覗いてみてはいかがでしょうか。

日時：2009年12月2日～3日  
10：00～17：00

場所：ホテルモナーク鳥取「大山」  
講師：国際経営法務コンサルタント  
事務所 国際法務㈱  
代表 中矢一虎氏

定員：30名

主催：ジェットロ鳥取

受講料：一般／5,000円（割引料金  
についてはジェットロ鳥取へお問合せ下さい）

申込締切：2009年12月1日

申込、問合せ：

ジェットロ鳥取（担当：蒲田）

TEL：0857-52-4335

## ジェットロ鳥取より 海外マーケティングセミナー のご案内

ジェットロ総務部長で元ミラノ・センター所長の平井氏（鳥取県出身）を講師に迎え、世界のファッショントレンドを常にリードしているイタリア・ミラノのマーケティング戦略等を学ぶセミナーを開催します。

また、本セミナー後、県内企業2社による事例発表もあります。

日時：2009年12月11日  
15：00～16：30

場所：とりぎん文化会館第2会議室  
定員：50名

主催：ジェットロ鳥取、  
鳥取県商工会連合会

受講料：無料

申込締切：2009年12月8日

申込、問合せ：

ジェットロ鳥取（担当：蒲田）

TEL：0857-52-4335

鳥取県商工会連合会（担当：森）

TEL：0857-31-5555

## キョンヒャンハウジングフェア2010 のご案内

近年、韓国・中国への国産材輸出が注目されています。2010年2月に韓国で行われる見本市において、国産のスギ・ヒノキ材の輸出促進PRのため日本国ブースが出展されます。

会期：2010年2月20日～24日  
会場：韓国国際展示場（COEX）

参加費：無料

出展物の要件：スギ・ヒノキ等の国産材を使用した内装材・構造材等

申込締切：2009年11月30日

申込、問合せ：

ジェイコム国産材輸出促進事務局  
（担当：和田、王、金）

TEL：06-6348-1390

FAX：06-6348-1507



## 編集後記

10月半ばに上海で、日本食品を取扱う商社やレストランを訪問しました。一年前に伺ったお話とはかなり状況が違って、昨年からの世界的不況の影響を感じずにはいられませんでした。例えば、ある日本料理店では、昨年までは日本人駐在員をターゲットにして焼酎を多く置いていたそうですが、今は中国人のお客さんがほとんどなので日本酒が多くなったとのこと。

その一方、高品質で安心・安全な日本食に対するニーズは健在であることも感じました。日本食品を取扱うスーパーでは相変わらず、ありとあらゆる日本食品が棚に並んでおり、その品揃えは日本のスーパーと遜色がありません。更に今回初めて訪れた小売店では、おいしそうな弁当や有機野菜のサラダなどがショーケースに並んでおり、多くの若い女性が昼食として購入していました。その様子は日本のランチタイムと変わりません。

上海を訪れるといつも、昔と現在と未来が混ざり合った所だなと感じます。世界中の人や企業が上海を目指してチャレンジするのは、その不思議な魅力のせいではないでしょうか。【r】

『とっとり・グローバルウォッチ』では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。メールでお気軽にお寄せください。また、受信希望（無料）の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：（財）鳥取県産業振興機構企業支援部  
海外支援グループ（担当：早川）

E-mail：kaigai@toriton.or.jp

TEL：0857-52-6703 FAX：0857-52-6782

## とっとり貿易支援センター 貿易に関する相談はこちらの窓口へ

### 【東部窓口】

■（財）鳥取県産業振興機構企業支援部  
海外支援グループ

TEL 0857-52-6703

■ジェットロ鳥取貿易情報センター

TEL 0857-52-4335

### 【西部窓口】

■樹さかいみなど貿易センター

TEL 0859-47-3900

■境港貿易振興会

TEL 0859-47-3905

### 【その他関係機関】

■境港管理組合港湾管理委員会事務局

TEL 0859-42-3705

■ジェットロ貿易相談デスク

TEL 0859-45-2203